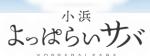
小浜市の鯖復活に向けた取組みと 水産流通の現状・課題

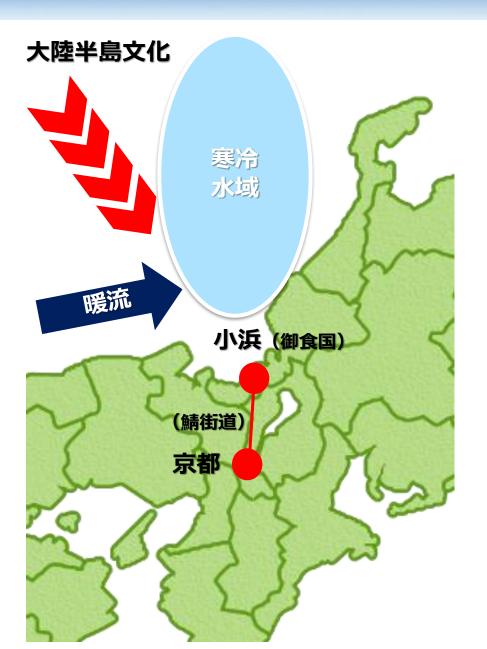




小浜市の概要







小浜市は、福井県の南西部、若 狭地域のほぼ中央に位置し、日本 海側有数のリアス式海岸と豊かな 漁場を誇る自然豊かなまち。

〇 人口:29,257人

世帯: 12,099世帯

面積:232.87 km2

(令和元年10月1日現在)

〇 農業産出額:13億5千万円

農業経営体数:633

漁獲量:647トン

漁業経営体数:117

(平成27年農林業センサス)

O 食に関わる歴史、文化を背景に 「食のまちづくり」を推進。

御食国若狭と鯖街道

文化庁 日本遺産 第1号認定



海の幸と特徴ある加工技術

「若狭もの」として 珍重される海の幸





京都とのつながりの中で生まれ 継承される優れた加工技術



動のへしこ 発酵食品で、盲味成分グルタ ミン酸が生サバの8倍 高血 Eを抑制するペプチドが5倍



なれずし へしこから作る発酵食品で、伊スローフード協会 「水の箱舟」認定



浜焼き鯖 しょうが着油で食べるほか、 寿司やすまし汁の具にも



若狭小鯛のささ漬け 小鯛を3枚おらしにし、うす塩、 称でしめた後、移棒に結めたもの 地理的表示保護制度(G1)登録



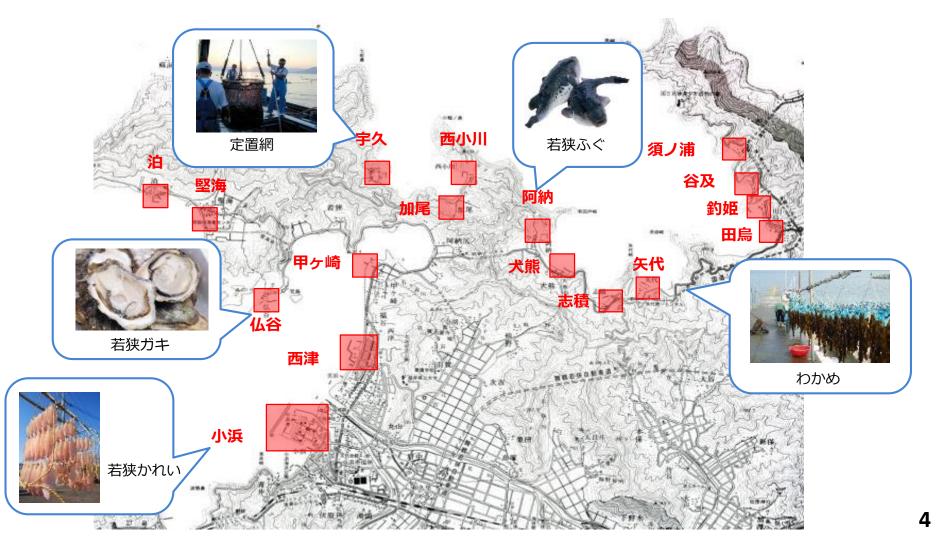
1500年前から現在まで京都の食文化を支えた「和食」の思想と技術を伝える聖地

小浜市の水産業の特徴



- つ 少量多品目(定置、底引き、刺し網、延縄など多様な漁法)
- つ 若狭かき、若狭ふぐ、サーモンなど養殖業が盛ん。
- つ アマダイやカレイなど京都で珍重される「若狭もん」のブランド。





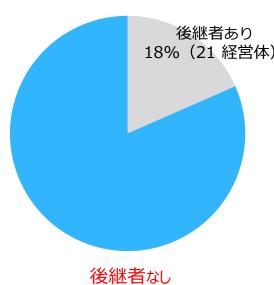
小浜市の水産業の現状



〇 近年は、漁獲量の減少や漁業者の後継者不足が課題。



図2 漁業経営体の後継者の有無



82%(93 経営体)

資料:漁業センサス(2013)



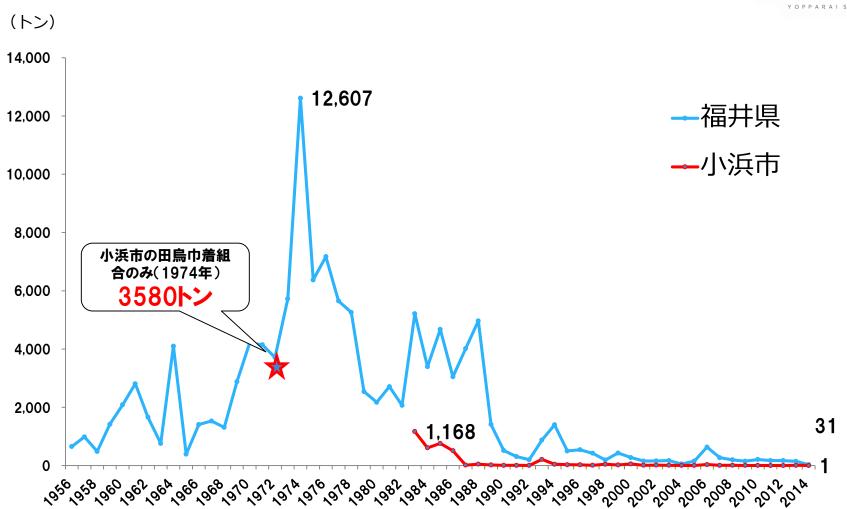
かつて、小浜に鯖の群れが押し寄せた





サバ漁獲量の推移





資料:福井農林水産統計年報等を基に作成

鯖を入口に、まち全体を元気に





平成27年4月「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産第1号に認定

- → 小浜は鯖街道の起点として知られ、鯖文化が根付いている。
- → 鯖は小浜のまちや文化、歴史を語る上での重要なキーワード



小浜=新鮮な魚介類というイメージ

- → 四季を通じて旬の多様な魚種が水揚げ
- なかでも、知名度の高いマサバは、地域外からの需要が高い。



地域外にも広く知られる小浜の「鯖」のイメージを活かす必要

「鯖」を入り口に

- 小浜への誘客促進 (1)
- 小浜のまちや文化、歴史に触れる **(2)**
- 小浜で日々水揚げされる本当に美味しい「若狭もの」の知名度向上 (3)
- 水産物の需要拡大 **(4)**
- さらなる誘客というループの形成へとつなげていく

鯖、復活プロジェクトの推進



<コンセプト>

観光客をターゲットとして、鯖街道のストーリーとともに、 刺身でも食べられる美味しい小浜の鯖を安定供給

【ブランド化】

- 鯖街道で繋がる京都の酒粕を給餌した「よっぱらいサバ」
- 全国ブランドサバ知名度ランキング6位(養殖部門2位) (H31.2 ぐるなび調査)

【出荷尾数の拡大】

H28 532尾

H29 2,855尾

H30 7,902尾

R 1 約6,800尾(10月末時点)

<u>年間1万5千尾超ペース</u>

【販路】

生産規模が小さく、 市場流通に乗らないた め、飲食店やホテル チェーン等に個別に営 業。

【行政から民間へ】

- 最初の3年間は市直営で養殖事業を実施
- ・ 平成31年2月に地元で田烏水産株式会社が設立 令和元年度からは民間主体の事業を開始







小浜市の水産流通の流れ1



よっぱらい 大 い

①各漁港で水揚げ

手作業で選別し、発砲ス チロール詰め、量が多い場 合はダンベを利用(定置網 の場合)



②市場持ち込み

- 集落ごとに水揚漁港が存在し、個々の漁業者がバラバラに市場まで陸送。
- 小規模漁師が多く、軽トラによる輸送が中心。



